

(2007 年 5 月 8 日発行)

(1) VVK 会員総会が終わって・・・ジャイカの 3 年間もうすぐ・・・

4 月 23 日に開かれた VVK の会員総会、なんとか参加者数も定数ギリギリで、総会成立。ほっと一安心の VVK メンバーたち (※1)。

総会前には午後 8 時や 9 時まで事務所に居残りをして、総会用の資料をあれこれと作ったオバチャンたち。総会への招待状も印刷し、団体登録事務所 (VVK が 2006 年 12 月組合登録をした事務所) にも招待状をもって行った。

団体登録事務所では、2006 年度の報告書案や 2007 年度の計画案も提出。おまけに総会の議事録の付け方まで習ってきた。

★登録事務所所長：「うーん、ビシャカパトナムに何百という組合が登録しに来るが、総会の連絡や報告書をワシらに提出する団体など、おまえさんたちが初めてじゃ。」

□オバチャン 1：「そーですかあ？アタシたち、年に 1 度の 4 月の総会はトーゼンなんですけど。」

★登録事務所所長：「とにかく、おまえさんたちだけだ、ちゃんと組合法に基づいてあれこれ書類を提出し、わからないことを聞いてくる団体は。」

なんと VVK、ソムニードのスタッフには、未だにコテンパンにされる事業計画も登録事務所所長に褒められちゃっている。(※同便り 31 号参照) ビシャカパトナムでは、今の VVK でも、もう最優秀 SHG 連合体になってちゃってる。(それは他の SHG 連合体が、何もしてないから?!)

VVK のオバチャンたちにとって「トーゼン」の「年次報告」とか「年次計画」とか「総会」とかは、フツーではないのが、SHG 大国アンドラ州の実態なのだろうか?! もっとも NGO が、「SHG のために」、年次報告書や年次計画や貸借対照表、予算書などを「作ってあげて」、SHG 連合体の総会に NGO が「SHG メンバーを招待」する、ということはフツターのことなんだけど。「オバチャンたち自身による」、年次報告とか年次計画とか総会は、ビシャカパトナムに限っては、他にはないようだ。

さてさて総会が終わって、一安心したのも束の間。2004 年 7 月から始まったこのオバチャン事業 (正式には JICA 草の根技術協力事業) は、この 6 月末で終了。3 年間の事業

終了にあたって、振り返る作業が必要になってきた今日この頃。

そこで、ある日の VVK の事務所で、4 月の総会で新しく選ばれた代表メンバーの運営委員会で、ソムニードのスタッフが VVK にお知らせ。

☆プロマネ (※2):「みんな総会お疲れさま。ところで、総会終わってすぐでナンだけど、もうすぐ PCUR-LINK 事業が終わるよね。」

▲オバチャン 2:「そうねえ。2004 年 3 月からもう 3 年も経つのねえ。」

☆プロマネ:「そこでお知らせなんですけど、6 月末から 7 月はじめにかけて、ジャイカからワキタさん (※3) がビシャカに来るのよ。みんなワキタさん、覚えてる？」

◎オバチャン 3:「覚えてるワー、確か 2 年前の 12 月にビシャカに来たジャイカの人よね？」

☆プロマネ:「それから、もう 1 人、ナガハタさん (※4) という人も来るのよ。」

▼オバチャン 4:「あ、知ってるわ。今年の 3 月末にもナガハタさん、VVK に来たわよね？他の日本人と一緒に。」

○オバチャン 5:「で、ワキタさんとナガハタさんは何をしに、また VVK に来るの？」

□オバチャン 1:「そんな、決まってるじゃない！ジャイカは 6 月末で 3 年間の VVK への援助を終わってしまうのでしょうか？最後だから、アタシらが以前と比べてどう変わったか見にくるんじゃないの？」

☆プロマネ:「それは、スルドイ！で、“どう変わった”を、どうやってワキタさんとナガハタさんに伝えるの？」

▲オバチャン 2:「この 3 月に、日本人がビシャカに来たでしょう？(JICA-NGO 研修) そのときみたいに、あれこれ大きな紙に絵と図とか書いて説明すればいいんじゃない？」

☆プロマネ:「あ、あれね。VVK 代表メンバーの 4 人が、VVK の 3 年間の歩みとか、SHG への研修とか、事務局管理の方法などを説明したやつね。あの講義ね、ナガハタさんも含めて、参加したみ〜んながすごいヨカット、って言ってたよ。あれで、VVK はジャイカちきゅうひろば (東京) から研修の講師料もらったんだよねえ。」

▼オバチャン 4:「アタシら、あんな講義ならいつでもしてあげるから、日本から何人呼んできてもいいわよー。ナンだったら、日本まで講義しに行ってもいいわよねー！」

●オバチャン一同:「ほ〜んとにそうねえ。いつも日本から来るばっかりだもんねー。アタシらが日本に講演に行ってもいいわよね?!」

☆プロマネ:「う〜ん、それもそうだねえ。ところで、ナガハタさんは、もうあんたちの講義を 3 月末に聞いたばかりよ。6 月末にもまた同じことするの？」

◎オバチャン 3:「それもそうねえ、なんかマンネリって感じねえ。」

□オバチャン 1:「でも、また準備するのタイヘンじゃない。3 年間の振り返りだったら、この間の講義で使ったものをそのまま使えば、面倒くさくないわよ。」

▲オバチャン2：「それもそうねえ、楽よねー。」

▼オバチャン4：「うーん楽そうだけど、なんかつまんないよね。」

☆プロマネ：「あんたたちさあ、もう紙に書いて VVK の説明するのやめたら？いつもそればかりじゃん。」

▼オバチャン4：「じゃあ、劇ってというのはどうかしら？」

☆プロマネ（ココロの声）：「そうそう、そーいうのを待っていたのよっ！！実は今日のミーティングの前にナガハタさんと劇の話をしたばかり☆ナガハタさんによると“演劇ワークショップ”というのが、自分の活動を振り返るツールとしてあるらしい。それにこのオバチャン・プロジェクトは劇になりやすそーだし☆これを終了時の評価にしちゃったら、すごい楽しそうだわ☆ということ、さっきナガハタさんとも相談したばかり。そうだっ！ビデオ撮影もして、終了時評価映画“踊る VVK オバチャン銀行”でも作ってしまおうかしら？！映画のタイトルはさすが私が考えるだけあってヘンテコだわ。ワキタさんやナガハタさんに後から相談しよーっと。」

～プロマネ、ココロの声から、話は、気温が体温を超えた暑～い VVK 事務所の議論に戻って～

▲オバチャン2：「劇にすんの？3年間分の活動を??」

▼オバチャン4：「大丈夫よ、これなら紙に書く必要ないし、新しく VVK に入ったメンバーにも見せられるじゃない？劇がいいわよっ！楽しそうでしょう？」

□オバチャン1：「：「うーん、劇にするのは大変そうねえ、出来るかしら？」

◎オバチャン3：「なんとかなるでしょう！！まだ時間あるし。」

▲オバチャン2：「難しいと思うけどなあ。一体誰がナンの役をやるの？ソムニードのスタッフの役もアタシらがやるの？」

□オバチャン1：「じゃあアタシ、黄門様（※5）の役やりたいわー☆ねえ、ねえ、黄門様、衣装とか貸してくれます？」

●黄門様：「よいじゃろう、ワシの眼鏡だって服だって貸してやるぞ。なんでも必要な衣装やメイクその他機材があったら、アシスタント・プロマネ（※6）に言っておくれ。」

◎オバチャン3：「じゃあ、アタシ、ラマラジュさん（※7）の役やりたいわー。」

▲オバチャン2：「ちょっと待ってよ。まだ劇にするって決めてないわよ。そんな今から役とならないでよ。アタシ、誰の役をやったらいいの？自分の役でもいいかしら？」

「PCUR-LINK 事業担当事業を振り返る（事業終了時評価）ことを劇にする?!」というオバチャンたちの議論はまだ続いている。

さてさて、どうなることかは次のお楽しみ。

(2) 生産・物流センター建設速報

ソムニードのブログ(<http://somneed.seesaa.net>)で、完成間近となったセンターの写真を掲載中。

脱力の建設プロセスは、ブログで近日公開予定！

<注意書き>

(※1) VVK：ビシャカ・ワニタ・クランティの略。2005年に同事業のファシリテーションによって設立されたビシャカパトナム市内および近郊の36のSHGからなる連合体。SHGとは、セルフ・ヘルプ・グループといい、貯蓄と貸し付けを行う10人～20人で組織されるグループ。

(※2) プロマネ：プロジェクト・マネージャーの略。本名は、原康子

(※3) ワキタさん：JICA 中部国際センター職員。連携促進チーム、PCUR-LINK 事業のご担当。本名は、脇田智恵さん。

(※4) ナガハタさん：現在、いりありよりあい学びあいネットワークでご活躍中。本名は、長畑誠さん。6月末に、ソムニードとJICA、VVKで実施する予定のPCUR-LINK事業終了時評価に有識者として参加してくださる予定。

(※5) 水戸黄門：本名、和田信明。ソムニードの代表理事

(※6) アシスタント・プロマネ：本名、前川香子。ソムニード・スタッフ

(※7) ラマラジュ：ソムニードのPCUR-LINK担当スタッフ。
